

会報紙

あんしん地域見守りネット ニュースレター「第7号」

地域活動を育む

かけはし

発行：一般社団法人 あんしん地域見守りネット

発行：地域連携チーム(代表 谷口 起代)
編集長：倉田 久
レアウト：斎藤 正史

事務局：地域活性化支援センター (運営：NPO法人 CoCoT)
〒271-0073 松戸市小根本 42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL. 047-711-7445 FAX. 047-369-7445

協賛：公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団

ほっとラインNOW

身体がご不自由で日常でも何かと不安を抱えていたAさん。安否確認サービスにご加入いただき、週一回、ご無事に過ごされているかの見守りも始めました。

とにかく転居したいという漠然としたものから、相談を重ねる毎に自分の希望を明確にされて、公的賃貸住宅への空室待ち申請もご自分で行かれました。

次にAさんへの支援は市営住宅の申込みです。分厚い記入説明書を頼りに書面を完成させて投函。結果は、残念ながら落選でした。

民間で探すか公的賃貸住宅の空きを待つか。内部で何度も検討を重ねていた頃、公的賃貸住宅から空室の連絡がありました。しかしAさんはその話を流してしまいました。紹介された地域はよく知らないからとの理由でした。ほどなくして、公的賃貸住宅からまた同じ地域の空室連絡がありました。今度は私たちも説明から内覧から同行して住環境などを確認しました。Aさんも納得されて公的賃貸住宅での契約となりました。入居日が決まり、こちらで引越社の手配もして、無事に転居の運びとなりました。

現在、Aさんは変わらず公的支援を受けながら平穏で静かな暮らしを送っています。
(木村)

あねっとピックアップ

第7回通常総会報告

一般社団法人
あんしん地域見守りネット
代表理事 川瀬 裕息

令和5年6月17日、第7回通常総会が松戸事務所とオンラインの併用で開催されました。

令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)事業活動報告と令和5年度事業活動計画及び新理事就任が審議され、無事承認されました。(令和5年6月現在の正会員数は、団体会員6団体/個人会員9名です。)

令和4年度事業活動報告では、令和4年3月をもって終了した「あんしん電話」を活用した松戸市補助事業について、補助事業にかかっていた経費を一般社団法人あんしん地域見守りネット(以下、あんしんネット)とNPO法人コミュニティ・コーディネート・タンク(以下、CoCoT)で全額負担し、「あんしん電話」利用者に対するフォローアップ事業として無料提供を9月30日まで実施したことに加え、令和4年10月よりCoCoTとの協働で開発してきたクラウド型地域見守り電話「げんきです」に、あんしんプレミアムサービス「げんきです」という名称の有料サービスとしての提供を始めたことが報告されました。



令和5年度事業活動計画として、新型コロナウイルス蔓延をきっかけに顕著となった孤立や孤独にかかわる課題を重要なテーマとし、あんしんプレミアムサービス「げんきです」を活用した地域見守り活動とそれに連動した居住支援事業のサポート活動を活動の中心とすることが説明されました。

前記の活動方針を実践するために、あんしんネットの地域連携チーム代表の谷口起代氏に新理事に就任いただき、法人運営にご協力いただくことになりました。

あんしんネットは、実践を重ねることと自由で緩やかなネットワークづくりを進め、公益性の高い活動を担う地域団体のネットワーク組織として、多様なテーマで活動する支援者のプラットフォーム形成を目指します。

来年度の通常総会こそ、平常通りの全面対面開催となり、会員や支援者の皆様と直接にお会いできることを心から望んでいます。

最後の思いに 寄り添うために

「かけはし」編集長

倉田 久

私は普段、高齢者施設に関する様々な相談に応じる仕事をしています。

その関係で介護や看護を担う方々からお話を聞く機会があります。ここでは、人生の最終局面である「看取り」の場面でのある担当者、そしてチームの取り組みを紹介いたします。

人生最後の入浴

あるホームの介護職員から伺った話。担当していた80代の女性は、食欲も徐々に細り水分だけを欲しがるようになりました。また、衰弱のせいから、たまに発熱の症状がでることもあり。そんなある日、女性が「お風呂に入りたい」と訴えます。抵抗力もなくなりつつあるので、最近清拭により清潔を保っていました。果たして入浴したいとの要望に際してもよいのか。発熱など症状が悪化する懸念はないのか。不安はありましたが、担当者は女性にとっての「人生最後の入浴」になるかもしれないと考え、併設するクリニックの医師に相談の上、女性の体調が落ち

着いているタイミングで介助浴を実施します。久々の入浴に女性はとても穏やかな表情を浮かべ、「ありがとう。とてもすっきりしたわ」とほほ笑んでくれました。幸い、その後体調の変化も生じることなく、女性は2週間後、静かに息を引き取りました。

デス・カンファレンス



後日、介護、看護、生活支援のスタッフが集まり、看取りの対応の振り返り(デス・カンファレンス)を行います。入居者の気持ちに寄り添えたか、「こうすればよかった」と思うことはないか。様々な意見、反省点を出し合い、よりご本人の気持ちに寄り添う介護の実践につなげます。また、このカンファレンスは、看取りに携わった職員、ケアチームのケアの意味もあります。

入居者の思いに寄り添うために

老人ホームの現場では、ちょっとした介護時のミスから入居者にけがを負

会員募集のご案内

「(一社)あんしん地域見守りネット」の目的に賛同していただける方、活動に参加していただける方、応援していただける方、お待ちしております。

正会員(団体) 5,000円(1口以上)/年
正会員(個人) 2,000円(1口以上)/年

振込口座： 千葉銀行松戸支店(普) 4277609
口座名義：一般社団法人あんしん地域見守りネット

facebook.com/genkioshiete
E-mail: info@genkioshiete.com
https://genkioshiete.com/

編集後記

5、6月に孤独・孤立対策推進法、認知症基本法が相次いで成立し、社会課題解決に向けた歩みが進みつつある。これらの実効性を高めるためには、当事者にとってより身近で頼りやすい地域の見守り機能が重要だろう。今回紹介した地域活動の様々な取り組みを通じて、だれでも立ち寄り相談ができる居場所が増えたらうれしい。そうした活動のPRにこの「かけはし」も取り組んでいきたい。

わせたり体調を悪化させる事故が発生します。そうした場合は、ホームや職員に対し責任が追及されることもあり。今回のケースにおいても同様のリスクがありました。それでも、入居者の最後の願いに添えるために、細心の注意を払いつつ対応しようとする担当者がいます。こうした職員の取り組みに、私はエールを送りたいと強く思います。

厚生労働省「人生最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」

(平成30年3月)(要約)

●医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされたうえで、本人が医療・介護従事者から構成される医療・ケアチームと話し合いを行い、本人による意思決定を基本としたうえで、人生最終段階における医療・ケアを進めることが重要。

●医療・ケアの開始・不開始、変更、中止等は、医療・ケアチームにより、医学的妥当性と適切性をもとに判断すべきである。

●可能な限り疼痛やその他の不快な症状を十分に緩和し、本人・家族等の精神的・社会的な援助も含めた総合的な医療・ケアを行うことが重要。

高齢者の孤独、孤立、それに伴う身体、心理面への影響が社会問題となっております。そこで本号では、松戸・流山地区で活躍する団体の、シニア層に向けた様々な活動についてご紹介いたします。

高齢者支援連絡会の取り組み

松戸市明第二西地区
高齢者支援連絡会
会長 小林 慶司

明第二西地区高齢者支援連絡会が創設されてからどこに軸足を置いて活動したらよいか右往左往する状況の中でいろいろと考えた結果、基本に立ち戻り高齢者への見守りを中心に活動することにしました。

高支連創設18年が経ち、見守り活動をして頂く相談協力員さん自身が高齢化しつつある中で何とか協力員さんの負担を少しでも減らしているような取組みが出来ないかと思っていたところ、CoCoToの「地域見守り電話」に出会いました。そこで小山代表理事にお会いして取組み内容を確認した上、掛かる初期費用については高支連全額負担で取り組むことに致しました。

明第二西地区17の町会と民生委員にご協力頂きパンフレットを配布して申込受付を開始しました。しかし思ったような加入申込数が増えませんでした。この取組みは良いことですので今後とも継続していきたいと思っております。次に取組みましたのは、高齢者に対して



する詐欺電話撃退防止についてです。松戸警察の生活安全課より講師をお招きして講習会を開きました。そこに詐欺電話撃退に取組んでいる事業者をお呼びしまして撃退機器の説明を受けました。これについては設置初期費用の半額を高支連負担で各町会・民生委

員のご協力を頂き申込みを開始いたしました。設置したご家庭の方からは非常に効果があったというお話をいただきました。今後は詐欺防止の講習会を一般向けに開きたいと思っております。

最後に、地域の地区社協・各町会との連携が必要と考えます。6月に高支連主催・地区社協後援で災害時に対応できるように車椅子の講習会を開催いたしました。平坦な場所だけでなく、坂道や段差のある所などでの取扱い方を教わりました。緊急時に少しでも体の不自由な方のお手伝いが出来ればいいと思っております。今後も相談協力員の負担を減らしつつ地域に役立つことを進めていきたいと思っております。

交流し楽しい時間を共有するというスタイルは、多くのシニアに受け入れられ、毎回ほぼ満席の人気ぶりでした。転機は2020年のコロナです。料理はもちろん、集まることすらできない状況の中、しかし我々は活動の目的を鑑み「こんな時こそ繋いだ手を離してはいけない」と思い、活動を続ける方法を模索しました。そしてオンラインでの開催に踏み切りました。とは言ってもオンラインを使えるシニアは当時一人もいませんでした。そこでスタンプも勉強し、オンラインを希望する方にお一人お一人電話で説明しながら、皆で使い方をマスターしていきました。デバイスやインターネット環境の問題がありました。それでも4割の方が利用できるようになり、毎月2回オンラインで、料理デモンストレーションや歴史講座、社会心理学講座、ゲーム、軽体操などを楽しみました。また毎月のおたよりによる交流も続け、下火に陥ることなく活動を継続してききました。

本号では各団体のシニア層に向けた取り組みを特集しました。ところで、松戸市では主に定年退職者を対象に「通いの場」「活動の場」を提供し、地域活動の担い手を育成し地域の活性化を図る取り組み「松戸プロジェクト」が展開されています。プロジェクトに参画する人や団体を支援するパートナーを務める所正明さんに活動を通じての思いについて寄稿いただきました。



松戸プロジェクトパートナー 所正明

「健康」という、究極の地域課題

団塊の世代（昭和22～24年生れ）が生まれた頃、我が国の平均寿命は50代前半であった。国勢調査のデータによると、一気に寿命が延びたのは昭和60年になり、女性が80歳、男性も75歳と、長寿社会に突入したことになる。現在、女性の寿命が90歳一歩手前となり、人生100年、と言われるようになった。勿論、寿命の延伸と健康は通じるものではない。さて現在、地域社会に「共生」という言葉が鳴り響いている。しかし、この言葉は決して新しくはない。古くからの概念の一つだ。共生とは、高齢化に伴走している核家族化、独居化等の



地域見守りサービス「げんきです」
おひとりさまのための
相談できる見守りサービス

あんしんホットライン 0120-386-117 (月～金10:00-16:00)
相談内容の例
介護事業者の紹介
入院時の身元保証の相談
住まい探しの相談
草抜き、買い物支援の相談
福祉・法律などの相談窓口の紹介

シニア食堂®のご紹介

流山市NPO法人メリリル
副代表 松澤 花砂

シニア食堂®は2017年に当法人が始めたコミュニティ活動で、シニアのQOLの向上、孤独・孤立防止、支え合いの仕組みづくりを目的としています。活動のきっかけは、複数の一人暮らしの高齢者から「ご飯を食べたい」といふ声や「寂しい」「食事を用意するのが大変」という声を聞いたことでした。そうした方々が寄り添い合える居場所を作ろうと考えました。



当初3年間は食を中心に据え「一緒に作り、一緒に食べる」料理交流会だけを運営していました。料理の先生に簡単に栄養価の高いメニューを考えてもらい、仲間どうしで包丁さばきなどを教え合いつつ賑やかに料理し、「美味いね」「きれいにできたね」と会話をしながら食べ、食後は笑いヨガ等で

主治医のような関係として、定期的に医者通いを行っている。その医師は、3～4年ほど前、それまでの勤務先である大きな病院を辞し、町の開業医として独立した。
「医者」は、地域社会において専門の科目に拘るのではなく、住民の健康を見守ることを通じて、医療という経験を活かしたい」とのことでした。そういえば、子どもの頃、地域社会に適当な間隔で「町医者」がいた。この安心感に見守られていたのかも知れない。
健康は、医者も住民も含めて、地域による見守りなのだとして、納得する話かと思った。

こーひーぶれいく
(公社) 全国有料老人ホーム協会では、第23回「シルバー川柳」大選作を発表しました。

棋士よりも 菓子に氣になる 名人戦
脱マスク よけい分からね 誰だっけ
自己紹介 名前、出身、趣味、持病
宿題を 孫に頼まれ 周バイト
免許より 夫返納 したい妻
(第23回有老協・シルバー川柳) 入選作より